

客観確率(頻度主義)と主観確率(ベイズ主義)

_ モンティ・ホール問題 _

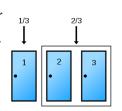
https://l-hospitalier.github.io



【頻度主義確率論(客観確率)】今日の降水確率? A氏が犯人である確率? それらの 確率は定義できない。 stochastic (確率的) ということは複数事象に関する性質で、単 一事象は起きるか起きないかのどちらかで中間はない(都市の複数部分(区)や24時 間のうち何%が雨という確率はある)。 Karl Pearson や Ronald Fisher による頻度主義 (frequentism) の確率統計学では確率は**偶然に起きる独立事象の全事象に占める割合** (全事象は 1) が定義。 1933 年コロモゴロフ (Andray Nikolaevich Kolmogoroy) によ り確率は「標本空間と対応する確率分布の関係」と再定義され、数学的基礎が与えられ

ベイズのもの とされる肖像 画。1936 年発 行の「生命保険 の歴史」に収録 されていた。

て「**公理論的確率論**」として論理的完成度を高めた。<mark>【ベイズ主義(主観確率)】</mark> は英国の長老派牧師ベイズ (Thomas Bayes 1702~61) が残した証明が死後発 見され、「ベイズ確率論」と呼ばれる考え方。 右上の肖像画は 1936 年出版の 本にある。 死後 200 年後で本人のである (ベイズ流の) 確率は高くない。 小 生が教えを受けた研究室の Dr は血液の乱流を研究する頻度主義者で「ベイジア ンと付き合うならもう教えない!」と言われた。 確率論では乱流のように1点 でのある瞬間の流速と方向を測定しても血流の性質を記述できないので、流速 の平均、分散、尖度、歪度などの 1 から n 次のモーメント(統計量)を計測、 計算して表示する。一方ベイズ流の本日の降水確率70%の予測は(傘を持つ?) 意思決定に役立つ。 ベイズ確率問題として<mark>【モンティ・ホール問題】</mark>がある。 〈投稿された相談〉 プレーヤーの前に閉じた3つのドアがあって、1つのドアの後



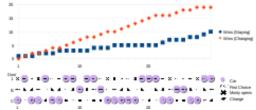
ろには景品の新車が、2つのドアの後ろには、はずれを意味するヤギがいる(右図上)。 プレーヤーは新車のドアを当てると新車がもらえる。 プレーヤーが 1 つのドアを 選択した後、(結果を知っている)司会のモンティが残りのドアのうちヤギがいる ドアを開けてヤギを見せる。 ここでプレーヤーは最初に選んだドアを、残りの開

けていないドアに変更してもよいと言われる。ここでプレーヤーはドアを変更すべき

だろうか? 元々ドアが 3 枚なので**イカサマ**が無ければ正答率はどれも 1/3。 この設定 はベイズ確率の条件付き確率の例(事後確率)で、10歳で現在まで人類最高のIQ 228 を記録したマリリン・ボス・サバーンは 1990 年 「マリリンにおまかせ」で「正解は『ド アを変更する』である。 なぜならドアを変更した場合は景品を当てる**確率が 2 倍**にな る」と回答、全米の数学者を激怒させた(ポール・エルデシュ*1は1時間でマリリンが 正しいのに気づいた)。 右最下段の図はエルディシュの学生が PC でモンテカルロ法 (乱数発生でランダム選択)を適用した結果(青点)で正答率は 1/2。 選択を常に変更 した場合(赤点)は正答率 2/3 の結果。 これでわかるようにドアが 2 枚残っていても 確率 1/2 ではない。 個別のドアの選択ではなく「ハズレを見た後でドアを常に変更す る」という選択は、実は右図2番目のように1のドアを選ぶか、2と3のドアのグルー プを選ぶかになる。 2枚ドアを選択すれば再度の選択が必要になるが司会者がハズレ をすでに教えてくれているので正答率は2/3(モンティが開けたハズレも入れれば1/3)。

モンティ・ホ ール問題 閉まった3つ のドアのうち 当たり(自動 車が入ってい る) は一つ。 例示のように 1つのドアが ハズレと判っ た場合、直感 的には残り2 枚の当たり確 率はどちらも 1/2 になるよ うに思える。

さてここで事情を知らない宇宙人が突然円盤から下りて きて残りの2枚のドアの前に立てば(事前確率や選択変 更は知らないので)2枚のドア選択の正答率は(最下段 図の青点の) 1/2 となる。 状況により客観確率と主観確 率は異なるがどちらも正しい(選択の内容が異なるので 確率が異なるのはあたり前か)。 【**医学における確率論】 こうの こう**



は通常はランダム化独立事象の標本空間での確率分布(頻度主義客観確率)であり、全 ての事象を全宇宙にもれなく調査するのは不可能なので全標本調査は前提とされてい ない。 もちろん独立事象だけでなく治療や服薬という事前確率を前提とした有病率や 治癒率などの主観的確率を議論することもあるので、客観確率だけが医学における確率 論の全てではない。

*120 世紀に最も多くの論文を書いた数学者。 世界最大はレオンハルト・オイラーで 850 篇、5 万ページと言われ 1911 年から全集刊行が始まったが、100年以上たっても完結していない。 東北大第20代総長、井上明久(1947~ 、姫工大 卒) は 1990 年代に 10 年間で 2800 の論文を出版 (毎週 2 報!)、研究不正が強く疑われている。

#233